

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				12	12	7	
	電気情報工学科 電気電子工学コース				15	15	7	
	電気情報工学科 情報工学コース				20	20	7	
	都市システム工学科				19	19	7	
	建築学科				24	24	7	
	機械・電子システム 工学専攻			6	4	10	7	
	建築・都市システム 工学専攻				18	24	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 Web サイトのシラバスページに掲載 「令和7年度実務経験のある教員による授業科目の一覧表」 https://www.akashi.ac.jp/life/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構(以下、高専機構)が、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなる全高専統一のシラバスシステムを作成している。シラバスの作成時期は次のとおりである。</p> <p>10月中旬頃 高専機構にてシラバスシステムの年次更新</p> <p>12月末頃まで 次年度授業計画表を作成し、それに基づくマスタデータの作成</p> <p>2月中旬頃まで 科目担当教員によるシラバス入力</p> <p>2月下旬頃まで 担当委員によるシラバスの点検</p> <p>2月末頃まで 点検結果に基づく修正</p> <p>3月末頃まで 入力状況等の確認</p> <p>4月1日 シラバスの外部公開</p> <p>シラバス作成にあたり、毎年度シラバス作成手順書を更新し、入力完了後は担当委員による点検を行っている。</p> <p>なお、実務経験のある教員等による授業科目については、シラバスの教育方法の項目にその旨が記載されている。</p>	
授業計画書の公表方法	シラバスとして本校 Web サイトにて公表 https://www.akashi.ac.jp/life/syllabus.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>定期試験後、シラバスに記載された評価方法・評価割合に従って、ルーブリックで設定された到達レベルに対する評価を行い、客観的に単位の認定を行っている。</p> <p>「学則」、「学業成績の評価等に関する規程」及び「学業成績の評価等に関する規程施行細則」により、成績評価や単位認定の基準を示し、教員会で審議のうえ、進級・卒業・修了を認定している。</p> <p>また、授業アンケートを年2回、意識調査を年1回実施し、学生の学習意欲の把握に努めている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標について、「学業成績の評価等に関する規程」及び「学業成績の評価等に関する規程施行細則」に記載されており、規程を公表している。</p> <p>履修科目の成績評価は100点法による評点とし、平均点で学科・コースごとに順位付けを行う。平均点は、学年の課程修了に必要な科目のみで計算しており、評点の和を科目数で除し算出している。</p> <p>また、成績分布状況の把握については、毎試験後に、学生ごとの平均点及び順位、科目ごとの平均点及び標準偏差を算出して学級ごとの一覧とした「成績一覧表」を作成し、成績状況の把握を適宜行っている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>本校 Web サイトにて公表</p> <p>学生生活のてびき https://www.akashi.ac.jp/life/handbook.html 主な規則に「学業成績の評価等に関する規程」「学業成績の評価等に関する規程施行細則」を掲載</p> <p>成績評価・単位認定等 https://www.akashi.ac.jp/life/evaluate.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシーを定め公表している。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに記載のとおり、本科卒業要件については、「学業成績の評価等に関する規程」に、専攻科修了要件については、「学則」に記載されており、最終学年において判定資料を作成し、教員会において、規程に定める基準を満たしているかどうかの判定を審議し、卒業・修了の認定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本校 Web サイトにて公表 https://www.akashi.ac.jp/guide/policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度: 令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度: 令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本校 Web サイトにて公表 https://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation.html

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：本校 Web サイトにて公表
<https://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法：学生生活のてびきー学則第 7 条の 2 https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf)
(概要) 機械をはじめとする「もの」を対象に、その開発、設計、製造など広範囲な開発・技術部門において十分に対応できる能力を育成するため、機械系の応用力学、材料、生産技術や制御などに関する基礎教育を重点的に行う。さらに、機械工学実験、設計製図、工作実習、プログラミングなどの実習教育をきめ細かく行うとともに、応用展開科目や開発研究を適切に教授することにより、新しい技術発展にも柔軟に対応できる創造性豊かな実践的技術者の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy.html)
(概要) 機械工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、機械工学の理論や技術を様々な分野に応用し、倫理観と責任感をもって社会に貢献する多種多様な業種・職種で活躍できる人材の育成をします。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。 1. 分野横断的能力 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、歴史、文化、社会などの様々な背景を伴って発展する産業技術を理解し、国際的に活躍できる。 2. 基礎的能力 自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、機械工学が社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。 3. 専門的能力 機械工学の様々な理論や技術 (材料分野、エネルギー分野、計測・制御分野、生産・加工分野、設計分野) をバランスよく修得し、様々な分野に応用できる。さらに日々進歩する新しい技術へも応用できる。日本語によるプレゼンテーションや文章作成により意図することを効果的に表現でき、英語によるコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy.html)

(概要)

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。

各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学び、2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型PBL科目を開講しています。機械工学実験や工作実習などではグループワークやレポート作成などの機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、歴史を開講しています。機械工学の技術者に最低限必要なプログラミングや電気工学の基礎知識を学ぶための科目を開講しています。情報通信技術（ICT）を学ぶため、情報系科目を開講しています。グローバル社会に必要な異文化対応能力を身に付けるため、英語、中国語などの語学系科目や異文化理解を深める科目を開講しています。

3. 専門的能力

機械工学の基礎を学ぶため、1年次より工作実習（4年次まで）、設計製図（5年次まで）を開講し、設計や生産の基礎を学びます。3年次、4年次は機械工学で重要な4力学（材料力学、流体力学、熱力学、機械力学）を中心に学び、さらに機械工学実験を通して、それらの知識をより深めます。5年次には4力学だけでなく自動制御なども学ぶとともに、それまで学んだ知識を活用して卒業研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy.html> 及び「学生募集要項」に掲載）

(概要)

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

・学力選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

・帰国子女特別選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英

語が得意である人を選抜します。

(入試に係る取組・改善状況)

受験者の利便性向上と負担軽減のため、令和3年度入試から最寄り地受験制度、令和5年度入試からWEB出願を導入している。また、高専志願者への門戸を広げるため、令和7年度入試から舞鶴、和歌山及びびなの3高専と提携し、追選考制度を導入した。

学部等名 電気情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第7条の2
<https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf>)

(概要)

高度情報化社会を支える重要な要素である電気情報関連分野において、広範化・高度化する技術に対応するために必要な電気、電子、情報、通信分野の基礎教育を第1学年から第3学年において行う。さらに、第4学年及び第5学年では電気電子工学コースにおいてエネルギー工学、制御工学、通信工学、電子物性工学、また情報工学コースにおいて情報ネットワーク、情報理論、プログラミング、ソフトウェア工学等の応用科目を教授する。これらの教育により電気情報関連分野の全般に渡る基礎的能力を持ち、かつ電気電子あるいは情報分野に関する高度な能力を持つ幅広い分野に対応できる技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy.html>)

(概要)

【令和7年度以降の入学者】

電気情報工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、エレクトロニクスや情報通信技術（ICT）が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮しながら、電気・電子回路やコンピュータプログラミングなどの基本的な設計技法を統合することによって新しいシステムを創造できる人材を育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。インターネット等で情報を適切に収集した上で活用すべき情報を選択でき、内容や影響範囲に配慮しながら発信できる。異なった文化を理解しながら国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。電気電子工学と情報工学の基礎学力を持ち、それらが社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

電気電子工学分野と情報工学分野における幅広い知識と専門分野の基本的な設計技法を統合することによって、急速な技術革新に対応する新しいシステムを創造できる。日本語による分かりやすいプレゼンテーションと誤解なく理解される文章作成、英語による基礎的コミュニケーションができる。

【令和6年度以前の入学者】

電気情報工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、エレクトロニクスや情報通信技術（ICT）が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮しながら、電気・電子回路やコンピュータプログラミングなどの基本的な設計技法を統合することによって新しいシステムを創造できる人材を育成します。また、コース制教育を導入し、高度化する技術に十分対応できる技術者の

育成を目指します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

○電気電子工学コース

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。インターネット等で情報を適切に収集した上で活用すべき情報を選択でき、内容や影響範囲に配慮しながら発信できる。異なった文化を理解しながら国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。電気・電子工学と情報工学の基礎学力を持ち、それらが社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

電気・電子工学分野における幅広い知識と情報工学分野を中心とする他の専門分野の基本的な設計技法を統合することによって、急速な技術革新に対応する新しいシステムを創造できる。日本語による分かりやすいプレゼンテーションと誤解なく理解される文章作成、英語による基礎的コミュニケーションができる。

○情報工学コース

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。インターネット等で情報を適切に収集した上で活用すべき情報を選択でき、内容や影響範囲に配慮しながら発信できる。異なった文化を理解しながら国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。電気・電子工学と情報工学の基礎学力を持ち、それらが社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

情報工学分野における幅広い知識と電気・電子工学分野を中心とする他の専門分野の基本的な設計技法を統合することによって、急速に変化し続ける情報化社会に新たな価値を生むシステムを創造できる。日本語による分かりやすいプレゼンテーションと誤解なく理解される文章作成、英語による基礎的コミュニケーションができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : <https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy.html>)

(概要)

【令和7年度以降の入学者】

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。

各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを経験的に修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。いずれの科目もレポート作成、グループ学習やプレゼンテーションの機会を設けています。4年次から5年次にかけては、インターンシップや卒業研究を通じた社会との関わりの中で幅広い視野と思考力を身に付けます。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、歴史を開講しています。電気回路や電子工学に関する知識を講義で習得するとともに、電気を道具として取り扱うにあたって必要となる基礎的な実験スキルを、実験実習を通して身に付けます。電気・電子・情報分野で共通して必要となるハードウェア技術の基礎知識を組み込みシステムやデジタル回路に関する講義で習得するとともに、情報分野については、一般教養ともなりつつあるデータサイエンスやプログラミングなどのソフトウェア技術についても、講義、実験を通して学びます。

3. 専門的能力

電気電子工学の専門性を深めるため、電気磁気学や半導体工学、制御工学、通信工学などについて学びます。また、情報工学分野の専門性を深めるため、IoT、人工知能、コンピュータシミュレーションなどについて学びます。さらに、コンピュータシステムの基盤技術である、計算機アーキテクチャ、コンパイラ、データベース、ネットワークシステムについても学びます。専門的な知識や能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、4年次に課題研究、5年次に卒業研究に取り組みます。

【令和6年度以前の入学者】

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、電気電子工学コース・情報工学コースの教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。

各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

○ 電気電子工学コース

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを経験的に修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。5年次の実験科目では、これらの集大成として、システム設計に取り組みます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、歴史を開講しています。電気・電子・情報分野で共通して必要となる情報分野の基礎知識をデータサイエンスやプログラミングに関する講義で学びます。また、基礎的な実験スキルも学びます。コース制教育に向けた基礎を電気回路や電子工学に関する講義で習得するとともに、情報工学の基礎知識も講義や実験を通して身に付けます。

3. 専門的能力

電気電子工学の専門性を深めるため、電気磁気学や固体物性、パワーエレクトロニクスな

どについて学びます。さらに、情報工学分野に関する知識も習得できるように、計算機や通信方式、数値計算等に関する講義を開講しています。専門的な知識や能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、4年次に課題研究、5年次に卒業研究に取り組みます。

○ 情報工学コース

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを経験的に修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型PBL科目を開講しています。5年次の実験科目では、これらの集大成としてアプリ開発に取り組みます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、歴史を開講しています。電気・電子・情報分野で共通して必要となる情報分野の基礎知識をデータサイエンスやプログラミングに関する講義で学びます。また、基礎的な実験スキルも学びます。コース制教育に向けた基礎をマイクロコンピュータやデジタル電子回路に関する講義で習得するとともに、電気電子工学の基礎知識も講義や実験を通して身に付けます。

3. 専門的能力

情報工学の専門性を深めるため、オペレーティングシステム、人工知能、データベースなどについて学びます。さらに、電気電子工学分野に関する知識も習得できるように、電気回路や電子回路、制御工学などに関する講義を開講しています。専門的な知識や能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、4年次に課題研究、5年次に卒業研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法:<https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy.html> 及び「学生募集要項」に掲載)

(概要)

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

・学力選抜

中学校等を卒業(見込み含む)した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

・帰国子女特別選抜

中学校等を卒業(見込み含む)した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

<p>(入試に係る取組・改善状況)</p> <p>受験者の利便性向上と負担軽減のため、令和3年度入試から最寄り地受験制度、令和5年度入試からWEB出願を導入している。また、高専志願者への門戸を広げるため、令和7年度入試から舞鶴、和歌山及びびなの3高専と提携し、追選考制度を導入した。</p>
<p>学部等名 都市システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第7条の2 https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>国土や地域の開発、防災、交通網・インフラ整備、環境保全など、人間の豊かな社会生活を支える都市基盤を創造するのに必要な測量学、構造力学、水工学、地盤工学、計画学、コンピュータ技術、材料工学、防災工学、環境工学分野の基礎理論を教授するとともに、工学実験、コミュニケーションスキル、建設マネジメントなどの実践的なエンジニアリングデザイン教育を行うことにより、高度な専門基礎学力と自主的問題解決能力を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな技術者の養成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.akashi.ac.jp/civil/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>都市システム工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、自然環境に配慮しながら、道路、ダム、橋、トンネルや上下水道などの社会基盤の調査、計画、設計、施工や維持管理に携わることによって、社会の持続的発展に貢献できる能力を持った人材を育成します。そのため以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <p>1. 分野横断的能力</p> <p>協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、歴史、文化、社会などの背景や地域性、多様性を理解し、国際性と指導力を発揮できる。</p> <p>2. 基礎的能力</p> <p>自然科学・社会科学の基礎知識を修得するとともに、それらを活用して専門分野の基本的な課題について、レポート作成やプレゼンテーションができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、都市システム工学や土木工学の定義とその対象が理解できる。</p> <p>3. 専門的能力</p> <p>専門科目として、測量、材料、構造、地盤、水理、環境、土木計画などに関する知識、技術を身に付け、地球環境保全や自然との共生に配慮しながら、機能的で快適な都市、地域やそれらを有機的につなぐ道路などの計画、橋、上下水道などの公共施設の設計、施工や維持管理に活用できる。未曾有の自然災害や想定外の環境変化などの問題も的確に理解、論理的に分析でき、その解決や技術の発展にも対応できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.akashi.ac.jp/civil/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、各科目の関連や学習過程が理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。</p> <p>各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。</p>

1. 分野横断的能力

1年次には、主体的な学習方法とグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。いずれもレポート作成、グループ学習やプレゼンテーションの機会を設けています。4年次から5年次にかけては、インターンシップや卒業研究を通じた社会との関わりの中で幅広い思考力を身に付けます。

2. 基礎的能力

世界の様々な文化や歴史を理解し、広く豊かな教養を身に付けるための語学、美術などの人文社会系、芸術系科目や、専門知識の修得に必要な数学やサイエンスなどの自然科学系科目を開講しています。また、社会基盤施設の施工、維持管理などへの活用が進む人工知能 (AI) や IoT の基礎を学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

専門的な基礎知識を学修するため、1~4年次に測量、材料、構造、水理、地盤、環境、土木計画などに関する専門基礎科目を開講しています。それらの理解を体験的に深め、科学的現象の論理的な分析能力を修得するために、実習や実験などの科目を各学年に配置しています。高学年次には、より実務に近い専門応用科目を修得するとともに、それらの知識や専門能力を活用し、工学的課題を解決するための総合学習として、卒業研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/civil/policy.html>)

(概要)

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

・学力選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

・帰国子女特別選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験をもち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

(入試に係る取組・改善状況)

受験者の利便性向上と負担軽減のため、令和3年度入試から最寄り地受験制度、令和5年度入試からWEB出願を導入している。また、高専志願者への門戸を広げるため、令和7年度入試から舞鶴、和歌山及びびなの3高専と提携し、追選考制度を導入した。

学部等名 建築学科
教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第7条の2 https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>人間生活の基盤である住宅や建築施設を歴史、文化、自然環境や多様な社会との調和のうちに創造するために、計画系、構造系、環境系の専門分野に関する基礎知識として建築計画、建築史、構造力学、建築工学実験、環境工学や情報処理科目などを教授する。さらに、これらを総合する科目として建築設計演習や建築構造演習などがある。基礎と応用の教育を通して工学的基礎知識と幅広い教養を併せ持ち、芸術的要素と技術的要素を統合する豊かな創造力と総合力を持つ人材の養成を目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>建築学科は、本校が掲げる教育目標のもと、自然環境や多様な社会との調和のうちに、豊かな空間を実現するため建築空間を構築する芸術的要素と技術的要素の両者を統合する柔軟かつ創造的な設計デザイン能力を備えた人材を育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <p>1. 分野横断的能力 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、多様化する社会を俯瞰的に把握し、歴史、文化、社会などの背景を伴って生まれた地域性を理解し、かつ国際性と指導力を発揮できる。</p> <p>2. 基礎的能力 自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポート、演習課題が作成でき口頭発表ができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、建築の芸術的側面と技術的側面が理解できる。</p> <p>3. 専門的能力 建築学科の各専門分野（計画・歴史、構造・材料、環境・設備、施工、法規）とそれらを総合したデザインを学び、その表現方法として設計製図に関する知識を修得し、建築技術者として社会に貢献できる。都市や建築の実践的な問題解決能力を備え、日本語や英語によるコミュニケーション能力のみならず、図面、CGによる建築的プレゼンテーションができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。</p> <p>各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。</p> <p>1. 分野横断的能力 1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学び、2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。2年次の異文化</p>

理解を深めるための科目では世界にさまざまな文化や歴史があることを理解し、民族の文化を相対的な視点から学びます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。また、3年次から5年次までの建築設計演習ではグループによる設計課題があり、4年次には海外の学生とのグループワークにより異文化協働のプロセスを体験します。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため理数系科目を開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため文化・語学系科目を開講しています。建築学科で求められる芸術的素養を身に付けるために美術、造形を開講しています。情報通信技術（ICT）の基礎を学ぶため情報系科目、グローバル社会に必要な異文化対応能力を身に付けるための語学系科目等を開講しています。

3. 専門的能力

1年次、2年次は専門的な基礎知識を学ぶために建築設計演習、建築一般構造、造形、情報基礎、建築史などの専門基礎科目を学びます。3年次、4年次は計画系、構造系、環境系科目を学びながら、設計課題に取り組みます。5年次にはより実務に近い設備、法規、生産などを学ぶとともに、知識や専門能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、卒業研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy.html> 及び「学生募集要項」に掲載）

（概要）

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

・学力選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

・帰国子女特別選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験をもち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

（入試に係る取組・改善状況）

受験者の利便性向上と負担軽減のため、令和3年度入試から最寄り地受験制度、令和5年度入試からWEB出願を導入している。また、高専志願者への門戸を広げるため、令和7年度入試から舞鶴、和歌山及びびなの3高専と提携し、追選考制度を導入した。

学部等名 機械・電子システム工学専攻

<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびき—学則第 47 条の 2 https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf）</p>
<p>（概要） 機械及び電子システムの設計開発に必要な応用工学系基幹科目や、より高度な工学知識を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観とコミュニケーション能力を備え、先端的な生産システムや工業製品の創造開発に貢献できる技術者の養成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html）</p>
<p>（概要） 機械・電子システム工学専攻は、本校が掲げる教育目標のもと、機械工学・電子工学分野のうち本科で修得した自らの専門知識を中心とした深い知識と多くの経験に基づく技術、その他幅広い知識と技術を活用し、多面的に問題を解決できる能力を備えた人材を育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学則に定める基準を満たした学生に修了を認定します。</p> <p>1. 分野横断的能力 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・創造的に行動できる。また、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることができる。</p> <p>2. 基礎的能力 得意とする専門分野を持つことに加え、専門分野以外の基礎知識を修得することで、工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。関連する技術が社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。</p> <p>3. 専門的能力 本科で修得した専門分野の知識の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを統合して機械・電子システムの設計ならびに開発研究等を行うことができる。また、国際的に通用するコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を発揮し、的確に情報を発信できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html）</p>
<p>（概要） 以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得する各専攻独自の教育課程を独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づいて組み立てています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように教育課程表を公開しています。 各科目の成績評価は、100 点法により採点し、60 点以上の成績をもって所定の単位を認定します。</p> <p>1. 分野横断的能力 1 年次の創発ゼミナールでは、グループ作業を通じて協調と作業分担、管理的役割を体験し、問題解決能力を実践的に養い、自らの成果をまとめ口頭発表する機会を設けています。また、専攻科特別講義では専門分野の異なる複数の教員による多様な話題について、分野横断的に技術開発動向について説明することで知見を広げ、技術分野を超えた普遍的な考え方や柔軟な開発対応力を養成します。</p> <p>2. 基礎的能力 論文発表等の技術的な表現能力を高めるために、プレゼンテーションの基礎を学ぶための</p>

科目を開講しています。また、国際標準の教養と感性、異文化対応能力を身に付けるため、語学系科目や、様々な民族の文化を相対的な視点から学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

機械・電子システム工学専攻の専門知識を身に付けるため、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の発展的な専門応用科目を開講しています。さらに、民間企業や官公庁などにおいて技術体験を通じて実践的技術感覚を会得するために、専攻科インターンシップを行います。1年次には機械・電子システム工学分野の研究を担当教員の下で行う工学基礎研究に取り組み、分析レベルの専門能力を養います。2年次には工学基礎研究を基礎として、学士授与に相応しいテーマで専攻科特別研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html>)

(概要)

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外にも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜：学校長推薦

高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・推薦選抜：社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・学力選抜

高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

学部等名 建築・都市システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびき—学則第47条の2
<https://www.akashi.ac.jp/o7en06000000ezj-att/lgakusoku.pdf>）

(概要)

都市環境及び建築環境を合理的に計画、設計、構築するのに必要な計画学、構造力学、環境工学の分野を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観、コミュニケーション能力を備え、創造力豊かなエンジニアリングデザイン能力を持ったより高度な専門技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html>)

(概要)

建築・都市システム工学専攻は、本校が掲げる教育目標のもと、建築学・都市システム工学分野のうち本科で修得した自らの専門知識を中心とした深い知識と多くの経験に基づく技術、その他幅広い知識と技術を活用し多面的に問題を解決できる能力を備えた人材を

育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学則に定める基準を満たした学生に修了を認定します。

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・創造的に行動できる。また、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることができる。

2. 基礎的能力

本科で修得した自然科学および自らの専門分野の知識を高度化すると共に、専門分野以外の基礎知識を修得することで、工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。

3. 専門的能力

本科で修得した専門とする分野の知識の上に、建築関連（計画・歴史・構造・材料・環境・設備・施工・法規、デザイン、設計製図）や都市システム関連（測量、建設材料、構造、地盤、水理、環境、計画）の知識を広く学び、これらを有機的に統合した建築・都市システムの設計ならびに開発研究等を行うことができる。また、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を発揮し、情報を発信できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html>）

（概要）

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得する各専攻独自の教育課程を独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づいて組み立てています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように教育課程表を公開しています。

各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次の創発ゼミナールでは、グループ作業を通じて協調と作業分担、管理的役割を体験し、問題解決能力を実践的に養い、自らの成果をまとめ口頭発表する機会を設けています。また、専攻科特別講義では専門分野の異なる複数の教員による多様な話題について、分野横断的に技術開発動向について説明することで知見を広げ、技術分野を超えた普遍的な考え方と柔軟な開発対応力を養成します。

2. 基礎的能力

論文発表等の技術的な表現能力を高めるために、プレゼンテーションの基礎を学ぶための科目を開講しています。また、国際標準の教養と感性、異文化対応能力を身に付けるため、語学系科目や、様々な民族の文化を相対的な視点から学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

建築・都市システム工学専攻の専門知識を身に付けるため、構造系、水理系、地盤系、計画系などの発展的な専門応用科目を開講しています。さらに、民間企業や官公庁などにおいて技術体験を通じて実践的技術感覚を会得するために、専攻科インターンシップを行います。1年次には建築・都市システム工学分野の研究を担当教員の下で行う工学基礎研究に取り組み、分析レベルの専門能力を養います。2年次には工学基礎研究を基礎として、学士授与に相応しいテーマで専攻科特別研究に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy.html>）

(概要)

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外にも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜：学校長推薦

高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・推薦選抜：社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・学力選抜

高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本校 Web サイトにて公表

<https://www.akashi.ac.jp/departments.htm>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
機械工学科	—	5人	4人	0人	0人	0人	9人
電気情報工学科	—	4人	3人	1人	1人	0人	9人
都市システム工学科	—	3人	2人	2人	2人	0人	9人
建築学科	—	4人	3人	0人	0人	0人	7人
教養学群	—	5人	8人	3人	3人	0人	19人
専攻科	—	1人	1人	0人	0人	0人	2人
校長付		0人	0人	0人	1人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			30人				30人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本校 Web サイトにて公表 https://www.akashi.ac.jp/education-and-research/researcher.html (Researchmap から提供されている情報)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	208人	104.0%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	40人	100.0%	200人	216人	108.0%	若干名	3人
都市システム工学科	40人	41人	102.5%	200人	210人	105.0%	若干名	2人
建築学科	40人	41人	102.5%	200人	219人	109.5%	若干名	2人
合計	160人	163人	101.9%	800人	853人	106.6%	若干名	7人
機械・電子システム工学専攻	8人	11人	137.5%	16人	21人	131.3%	—	—
建築・都市システム工学専攻	8人	9人	112.5%	16人	21人	131.3%	—	—
合計	16人	20人	125.0%	32人	42人	131.3%	—	—
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	37人 (100%)	22人 (59.5%)	15人 (40.5%)	0人 (0%)
電気情報工学科	43人 (100%)	32人 (74.4%)	9人 (20.9%)	2人 (4.7%)
都市システム工学科	43人 (100%)	21人 (48.8%)	21人 (48.8%)	1人 (2.3%)
建築学科	36人 (100%)	22人 (61.1%)	12人 (33.3%)	2人 (5.6%)
機械・電子システム工学専攻	11人 (100%)	6人 (54.5%)	5人 (45.5%)	0人 (0%)
建築・都市システム工学専攻	11人 (100%)	8人 (72.7%)	3人 (27.3%)	0人 (0%)
合計	181人 (100%)	111人 (61.3%)	65人 (35.9%)	5人 (2.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：北海道大学、筑波大学、東京大学、横浜国立大学、信州大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、和歌山大学、九州大学、東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院など				
就職先：関西電力(株)、東海旅客鉄道(株)、(株)大林組、三菱電機(株)、環境省など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定し、これに基づいた教育課程表を作成し、行事予定表に基づき授業を実施している。
授業科目、授業の方法及び内容については、全高专統一のシラバスシステムを用いて、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなるシラバスを作成している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>本科卒業については、最終学年の学年末に、卒業要件ごとに修得単位を集計した卒業判定資料を作成し、教員会にて、ディプロマ・ポリシーや修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。</p> <p>なお、本科卒業要件については、「学業成績の評価等に関する規程」に記載されており、次のとおりである。</p> <p>【「学業成績の評価等に関する規程」より抜粋】</p> <p>当該学年までの修得単位数が、自由選択科目を除いて、一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上を含め、167 単位以上であること。</p> <p>当該学年までの必修科目のすべてを履修していること。</p> <p>卒業研究が 60 点以上であること。</p> <p>専攻科修了については、最終学年の定期試験終了後、修得単位を集計した判定資料を作成し、教員会にて、ディプロマ・ポリシーや修得単位数等を踏まえ、修了を認定している。</p> <p>なお、専攻科修了要件については、「学則」に記載されており、次のとおりである。</p> <p>【「学則」より抜粋】</p> <p>校長は、専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、別表第 4 に定める一般教養科目及び専門科目のそれぞれの必要単位数を修得し、62 単位以上を修得した者について、修了を認定し、所定の修了証書を授与する。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科 電気電子工学コース	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科 情報工学コース	167 単位	有・無	単位
	都市システム工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	機械・電子システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
	建築・都市システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本校 Web サイトにて公表</p> <p>https://www.akashi.ac.jp/guide/facility.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	6,800 円～ 159,400 円	○その他内訳 ・学生会入会金 2,000 円 ・学生会費 4,800 円 ※以下寮生のみ (専攻科除く) ・寄宿料 9,600 円 ・入寮費 3,000 円 ・学寮諸経費 140,000 円
	電気情報工学科				
	都市システム 工学科				
	建築学科				
	機械・電子シス テム工学専攻	234,600 円	84,600 円	6,800 円	
	建築・都市シス テム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>履修指導のガイダンスを学科生・編入学生・留学生・障害のある学生に対して、毎年3月の入学前に、専攻科生については4月に実施している。</p> <p>実習工場の利用に関するガイダンスとして、1年次の初回授業で利用方法等の講習を行っている他、2年・3年次にも危険予知トレーニングを実施している。</p> <p>学生の自主的学習を支援するため、準学士課程では担任制、専攻科課程では指導教員制の導入、学生相談室の対面型の相談受付体制、電子メール等によるハラスメント相談受付体制、資格試験・検定試験等の支援体制、グローバルエデュケーションセンターによる外国留学に関する支援体制等を整備している。</p> <p>学習支援に関して学生のニーズを把握するための取組として、準学士課程では担任制、専攻科課程では指導教員制の導入、授業アンケートを実施している。</p> <p>障害のある学生に対しては、明石工業高等専門学校特別修学支援要項に基づき、支援体制を整備し、必要な支援を行っている。</p> <p>経済面では、奨学金・授業料減免・授業料徴収猶予制度を整備している。4年・5年・専攻科生については、日本学生支援機構給付奨学金の継続者、採用候補者および新規申請者は、認定結果が出るまでの間、授業料の徴収猶予を実施している。また専攻科1年生については、入学科も同様に徴収猶予を実施している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備し、進路研究セミナー、進路指導ガイダンス、進学・就職説明会、資格試験・検定試験のための個別対応、資格取得による単位認定等を行っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生相談室を中心に保健室に常駐している看護師に加え、学校医、学校薬剤師が連携して学生の健康支援を行っている他、非常勤のカウンセラー（臨床心理士）を相談室に配置し、学生相談にあたっている。</p> <p>○ 健康診断</p> <p>学校保健安全法に基づいて、毎年4月に、学生の定期健康診断を実施。感染症の発生、その他必要と認められる場合には、臨時に健康診断を行うこともある。</p> <p>○ 保健室</p> <p>学生の健康の保持管理のために保健室があり、看護師が常駐している。保健室では学校内で発生した疾病、傷害等に対し応急処置を行う。また、随時健康相談に応じている。</p>

○ 学生相談室

学生の学習、学校生活、課外活動、寮生活、家庭生活、交友関係、性の問題、人生観、進路等のいろいろな問題の解決の手助けをするために、次のような学生相談制度を設けている。

(利用案内)

月曜日～金曜日（月曜日をのぞく）の 15:00～18:00 に開室。本校公式 web サイトに利用案内を掲載しており、メールでの予約が可能。

(学生相談室相談員)

学生相談室では、看護師及び非常勤カウンセラーを含む相談員 12 名で相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本校 Web サイトにて公表

https://www.akashi.ac.jp/guide/information_disclosure.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G128110109189
学校名 (〇〇大学 等)	明石工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		34人 () 人	33人 () 人	39人 () 人
内 訳	第Ⅰ区分	18人	18人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅱ区分	-	11人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)	人	人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 () 人
合計 (年間)				39人 () 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	-	0人
計	人	-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。